

民進、くすぶる共産不信

長島氏「独立独歩の政党に」

9月末の岡田克也代表の任期満了に伴う民進党代表

選に向け、党内対立の火種がくすぶり始めた。長島昭

久元防衛副大臣が11日、参院選の「民共」共闘路線への

異論を唱え、代表選での候補擁立の可能性に含みを

持たせた。ただ、党内では岡田氏の出馬・再選を有力

視する向きが多く、「反乱」が顕在化する材料は乏

しい。一方、党執行部は代表選の日程について、9月

18日を軸に調整に入った。

「これから参院選の総括が行われる。私たちも意見を言いながら、民進党が単なる万年野党ではなく、政権準備政党として独立独歩

で立てる政党になるよう力を尽くしたい」

11日に都内で記者団の取材に応じた長島氏は、岡田

氏が主導した民共共闘への不信感を隠さなかった。代

表選に関しても「党再生の議論をしっかりと深めた中で

おのずと決まってくる」と述べ、岡田氏の対抗馬擁立

の余地を否定しなかった。

もっとも、民共共闘路線への批判は広がりを見せているのが実相だ。32の改選

1人区で野党統一候補が11勝し、「反転攻勢の一步目は踏み出せた」（枝野幸男

幹事長）との評価が大勢を占める。党自体も改選43から大幅に減らしたとはい

え、3年前（17議席）の倍近い32議席を獲得した。

岡田氏は代表選への対応を「白紙」としている。だが、岡田氏に近い党幹部は

出馬を予測。「一本化のおかげで当選した候補もい

る。次期衆院選を考えれば共産党との共闘がおかしい

なんて言えない」と、対抗馬擁立の動きを牽制した。

実際、「ポスト岡田」の候補と目される細野豪志元環境相からは目立った執行部批判は出ていない。た

だ、細野氏周辺は「ここで岡田執行部にもの申すことができなければ、この先の細野氏の展望は開けない」と不安を口にした。

一方、民進党の支持母体・連合の神津里季生会長は

11日の会見で「最悪の状況から脱していると思うが、

国民の思いを受け止めることには至らなかった」と参

院選を総括した。党執行部の責任論に関しては「党の話なので、軽々に言えない」と述べるにとどめた。